

## 9. 皮膚科研修プログラム（選）

### 1. はじめに

皮膚科で扱う領域は全身の皮膚および可視領域の粘膜、毛髪、爪である。皮膚科で診る疾患は純粋な皮膚疾患のみならず、全身の病態に関わる皮膚症状まで多岐にわたる。皮膚の症状は目に見えるため、患者はすぐに症状を訴える（見せる）ことが可能であり、従って、皮膚科医でなくても臨床に携わる医師であれば、皮膚疾患と関わる機会は少なくないとおもわれる。

本研修プログラムが、将来の日常診療に活かされる有用なものとなるべく勤める。

### 2. 指導体制

江藤 宏光

### 3. 研修期間

1ヶ月～

### 4. 研修の目標

#### <一般目標>

皮膚科診療における基本的知識及び技術を修得する。

日常よく遭遇する皮膚科疾患に対する適切な判断や処置法を修得する。

全身疾患の一部としての皮膚症状の診察から、全身を診る総合的な診断力を修得する。

皮膚疾患を観察する際に、常に全身的疾患との関係を考える視点を築く。

#### <行動目標>

1) 診察：皮膚病変の適切な形態学（発疹学）的観察とその表現（記載）法を修得する

2) 検査：皮膚科学的検査法を修得する

(1) 真菌検査、硝子圧診、皮膚描記法、ニコルスキー徴候など日常の検査法

(2) パッチテスト、皮内テスト、RIST、RASTなどの免疫・アレルギー的検査法の意味と実施方法、判定について熟知し実施する。

(3) 皮膚組織試験採取の適応、方法、注意について理解し実施できる。

3) 治療：各種の皮膚科治療法の基本的事項を理解し実施できる。

(1) そう痒、疼痛に対する全身療法 of 適応を理解し実施できる。

(2) 局所外用療法（単純塗布、重層法、ODTなど）の適応を理解し、実施できる。

(3) 副腎皮質ステロイド外用剤の種類と使い分けの基本事項を理解し、実施できる。

(4) 抗真菌剤、抗生剤、保湿剤などの外用剤についてその適応と使用方法を理解する。

(5) 液体窒素凍結療法の適応と手技について理解する。

(6) 皮膚外科的局所麻酔法、切開法、切除法・縫合法を熟知し施行できる。

(7) 熱傷の重症度とその治療法について熟知し、軽度熱傷に対する処置を実施できる。

<到達目標>

代表的な皮膚疾患についてその病態と診断法、治療法を理解し実施できる。

- 1) 湿疹皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎など）：原因検索や増悪因子の検討。
- 2) 蕁麻疹：原因検索や増悪因子の検討、救急対応ができる。
- 3) 薬疹・中毒疹：原因検索、初期対応ができる。
- 4) 皮膚感染症（細菌、真菌、ウイルス、疥癬）
- 5) 膠原病・血管炎：初発症状、初期症状としての皮膚所見を知識として修得する。
- 6) 皮膚腫瘍：良性・悪性の鑑別。前癌病変、早期癌を疑う所見を知識として修得する。
- 7) 熱傷・褥瘡：評価方法と初期対応

多くの臨床医は、日常診療において皮膚疾患の診療に携わる機会が少なからずある。その時点で病態を把握し、初期対応ができれば望ましいが、現実的には難しいと思われる。様々な病態や疾患の存在を認識したうえで、難しいと思ったら躊躇せず専門医にコンサルテーションできる的確な判断力こそ重要であり、修得していただけたら幸いである。